

平成 29 年度 JEITA ソフトウェア事業戦略専門委員会

JEITA IT×シェアリングエコノミー アイデアソン

～IoT 時代の豊かな暮らしの実現に向けて～

実施報告

平成 29 年 11 月

一般社団法人電子情報技術産業協会

ソフトウェア事業戦略専門委員会名簿

委員長	白井克昌	株式会社日立製作所
委員	神南吉宏	日本電気株式会社
〃	苗村健二郎	株式会社東芝
〃	永嶋規充	三菱電機株式会社
〃	前川隆昭	三菱電機株式会社
〃	松本学	富士通株式会社
オブザーバ	志賀啓明	
事務局	三浦守	一般社団法人電子情報技術産業協会

(敬称略・順不同)

◇ 目 次 ◇

1. 実施概要	1
1.1 背景と目的.....	1
1.2 アイデアソンの概要.....	1
1.3 事務局（敬称略・順不同）.....	1
1.4 発表方法と審査ルール.....	2
1.5 当日のタイムテーブル.....	4
2. 進行報告	5
2.1 開会挨拶及びアイデアソンの開催説明.....	5
2.2 特別講演.....	5
2.3 グループディスカッション.....	6
2.4 発表および質疑応答.....	9
2.5 表彰および閉会.....	10
3. 実施結果	11
3.1 発表内容.....	11
3.2 講評及び審査結果.....	15
4. 総括	16

1. 実施概要

1.1 背景と目的

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）では、日本のIT関連産業のグローバル市場における競争力を分析し、市場競争力の向上に向けて、わが国における情報利活用の現状や課題等について調査・検討を進めている。過年度の調査検討においては、2011年3月の東日本大震災の教訓を踏まえた「安心・安全」、「快適・便利」な社会の実現を目指す姿と捉え、社会インフラの情報利活用による震災への備えと消費者の利便性を実現する環境整備を課題と設定し、安心・安全かつ快適・便利なスマート社会実現に向けた施策を検討した。

本年度は、「快適・便利」な社会の実現に向けた新たな潮流である「シェアリングエコノミー」に着目し、当該分野の発展にソフトウェア産業が寄与するための方策を検討している。この中で、アイデアソンを実施し、シェアリングエコノミー分野におけるサービスアイデアやIT・ソフトウェアの活用可能性のアイデアを広く募ることとした。

1.2 アイデアソンの概要

タイトル： JEITA IT×シェアリングエコノミー アイデアソン

～ IoT時代の豊かな暮らしの実現に向けて ～

日時： 平成29年11月6日（月） 10:00～18:00

場所： 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）402～403 会議室

主催： 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）ソフトウェア事業戦略専門委員会

参加者： 21名

1.3 事務局（敬称略・順不同）

山田 大介 ビースラッシュ株式会社 代表取締役

黒川 祥悟 みずほ情報総研株式会社 経営・ITコンサルティング部

伊澤 俊 //

三浦 守 一般社団法人電子情報技術産業協会

1.4 発表方法と審査ルール

1.4.1 発表の方法

発表は1グループ10分で行い、指定フォーマット、フリーフォーマットの用紙を利用して発表することとした。

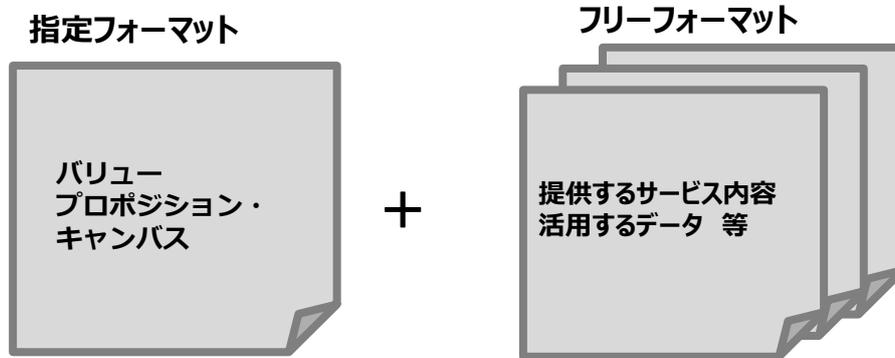


図 1-1 発表資料

【バリュープロポジション・キャンパス】

考案したアイデアが、誰にどのような価値を提供するのかを整理するために、バリュープロポジション・キャンパス (VPC) をフォーマットとして提示し、VPC 上にアイデア整理し、発表することとした。

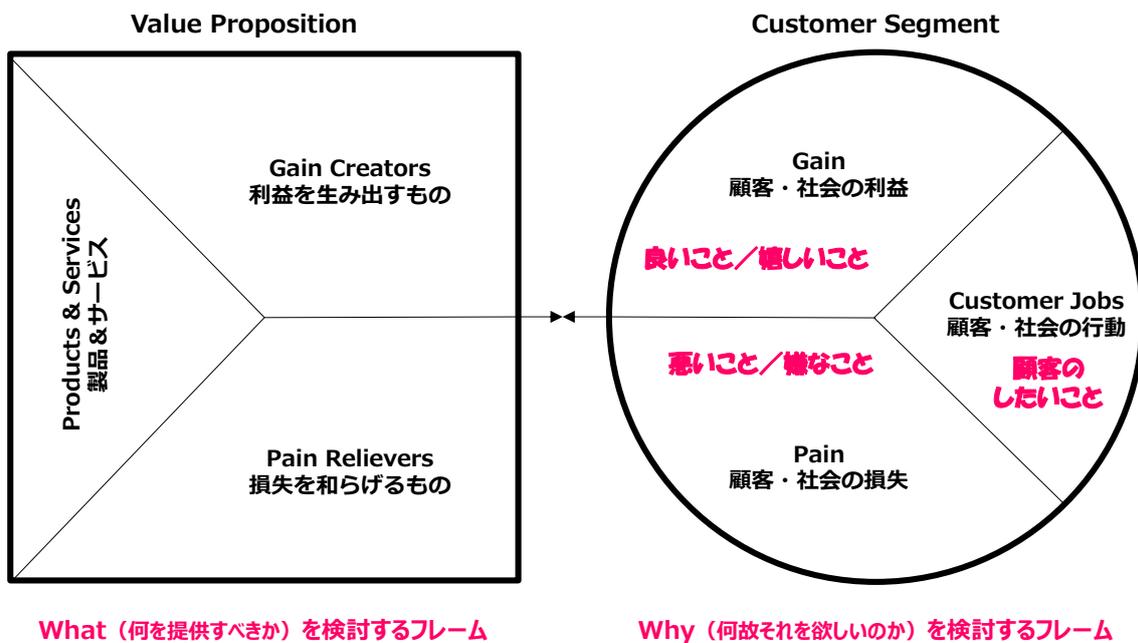


図 1-2 指定フォーマット バリュープロポジション・キャンパス

1.4.2 審査方法

参加者等による相互評価による投票を行い、得票数により優勝グループと特別賞グループを選定した。

審査基準は以下のとおりである。

【審査の観点】

- テーマとの適合性： 与えられたテーマに沿ったアイデアであるか
- 発想の新しさ： 発想が新しいか、従来にない独創的なものであるか
- 実現性： (2020年頃までに) 世に出せる可能性はあるか
- IT活用の有用性： IT／データを活用して課題を解決しているか
- プレゼンテーション： 発表の内容・完成度

1.5 当日のタイムテーブル

【Ⅰ. テーマに関連する話題提供】

10:00-10:05 開会の挨拶、アイデアソン開催説明

JEITA ソフトウェア事業戦略専門委員会 苗村委員

10:05-11:05 特別講演「シェアリングエコノミーが社会を変える」

内閣官房 シェアリングエコノミー伝道師 石山アンジュ氏

【Ⅱ. 参加者によるグループディスカッション】

11:05-11:35 グループ内自己紹介及びグループディスカッション

11:35-12:15 休憩

12:15-12:30 アイデアソンの進め方説明

12:30-13:15 事前に検討したアイデアの共有と方向性の議論

13:15-13:30 中間報告

13:30-16:00 グループディスカッションおよび発表準備

【Ⅲ. 成果発表・講評】

16:00-17:20 各グループ発表、質疑応答、投票

17:20-17:30 アンケート記入

17:30-17:40 表彰及び閉会の挨拶

JEITA ソフトウェア事業戦略専門委員会 白井委員長

2. 進行報告

2.1 開会挨拶及びアイデアソンの開催説明

JEITA ソフトウェア事業戦略専門委員会 苗村委員より開会の挨拶を行った。



図 2-1 開会の挨拶

2.2 特別講演

内閣官房 シェアリングエコノミー伝道師 石山アンジュ様より、「シェアリングエコノミーが社会を変える」と題して、シェアリングエコノミーの概要や、国内外のシェアリングサービス等について講演いただいた。講演のポイントは以下の通りである。

- 従来からあるレンタルサービス等とは異なり、シェアリングエコノミーでは、インターネット上で貸し手と借り手を仲介するプラットフォームを提供する点が特徴的である。シェアリングエコノミー事業者はあくまでユーザー同士のやり取りを支援する立場である。
- 現在シェアリングエコノミー協会の会員企業は約 200 社であり、100 社がシェアリングエコノミーサービスを運営するプラットフォーマーである。このうち 9 割が日本のシェアリング事業者である。
- 日本においては自治体の課題をシェアリングエコノミーサービスにより解決を目指すシェアリングシティの取り組みが始まっている。政府では今年度シェアリングシティを 30 自治体立ち上げる方針を掲げている。海外のシェアリングシティである韓国ソウル市では、交通渋滞、環境問題、社会保障等の都市課題を解決するためにシェアリングエコノミーが利用されている。



図 2-2 石山アンジュ氏による講演の様子

2.3 グループディスカッション

特別講演の後、4つのグループに分かれ、シェアの対象や提供するサービスとITシステムについて議論を行った。各グループの議論のテーマは以下の通りである。

- グループA：移動のシェア
- グループB：スペースのシェア
- グループC：モノのシェア
- グループD：スキルのシェア

以下では、実施したアイデアソンの流れを報告する。

(1) グループ内自己紹介及びグループディスカッション

ディスカッション実施前に、中間報告までの進行内容について事務局より説明が行われ、グループ内で自己紹介を行った。



図 2-3 事務局による進行説明の様子



図 2-4 自己紹介及びグループディスカッションの様子

(2) 中間報告及びグループディスカッション

グループディスカッションの後に、グループ間の情報共有のために中間報告を行った。その後、再度グループに分かれ、グループとして検討する主要な課題の特定及びそれらの課題解決のための方策等についてグループディスカッションを行った。



図 2-5 中間報告の様子

(3) グループディスカッションの取りまとめ

グループディスカッションの内容を発表フォーマット上に整理する等、報告に向けた取りまとめを行った。



図 2-6 取りまとめの様子

2.4 発表および質疑応答

グループ毎にディスカッション結果を発表し、会場から様々な質疑が行われた。



図 2-7 発表の様子

2.5 表彰および閉会

JEITA ソフトウェア事業戦略専門委員会 白井委員長より、優勝グループと特別賞グループの表彰を行った後、閉会の挨拶を行った。



図 2-8 審査発表の様子

3. 実施結果

3.1 発表内容

(1) グループA（移動のシェア）

サービス名：ユニバーサル・トリップ・サービス

- 自家用車、トラック、船舶等の乗り物を対象としたライドシェアサービスを提案した。移動サービスを提供するホストとしては、車を所有する個人と船舶やトラックを運航する企業を想定する。ホストはチケットとして移動サービスを提示し、プラットフォーム上でチケットを利用者であるゲストへ販売する。販売の際には、条件交渉ができたり、オークション・逆オークションでの価格設定を行うことができる。
- チケットの売買の際には、AIによりホストとゲストのマッチングを高度にサポートする。例えば、ゲストの車内での過ごし方（寝て過ごしたい、特定の音楽を聞きたい、会話を楽しみたい、お酒を飲みたい、介護の必要がある等）に応じてドライバーとマッチングを行うことで、ゲストのわがままな要求にきめ細かく対応することができる。
- 与信担保の機能も持ち、ホストとゲストの相互評価の他、安心・安全の実績、車内環境、人となり・好み等もデータベース化し、マッチングの際に活用する。

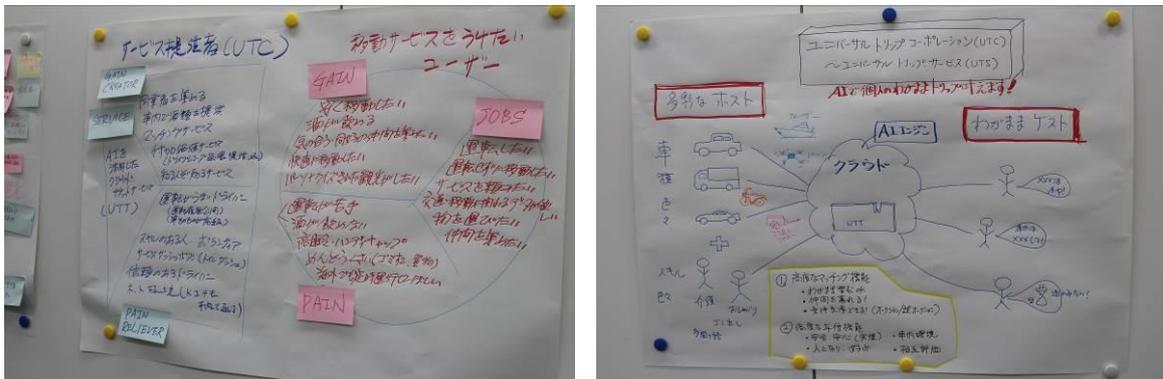


図 3-1 グループAの発表内容

(2) グループB（スペースのシェア）

サービス名：寂しいあなたに公共施設

- 都心に住む单身者を対象として、公共施設等のキッチンを貸し出すサービスを提案した。单身者向けの物件はキッチンが狭く、調理が難しい点に着目し、広いキッチンで料理をしたいというニーズを叶えるサービスである。対象とする公共施設は、自治体の管理する学校の家庭科室、図書館のキッチンの他、住宅メーカーが管理する住宅展示場の物件等も含む。
- 上記のような施設は既に調理器具がある程度備え付けられているため、利用者にとっては、新たに調理器具を購入しなくても本格的な調理が楽しめるという利点もある。自分で作った料理の画像を SNS に投稿する楽しみ方もありうる。また、複数人でキッチンを利用してもらうことで出会いの場として活用されることも想定する。
- 利用者は、プラットフォームを介して、キッチンの検索、予約をすることができ、利用後の料金の支払いも同プラットフォーム上で行うことができる。
- サービス実現に向けた課題としては、サービス利用の際に取得した個人情報の取扱い、調理器具等の設備（備品）の準備、防犯・防火対策等が挙げられた。

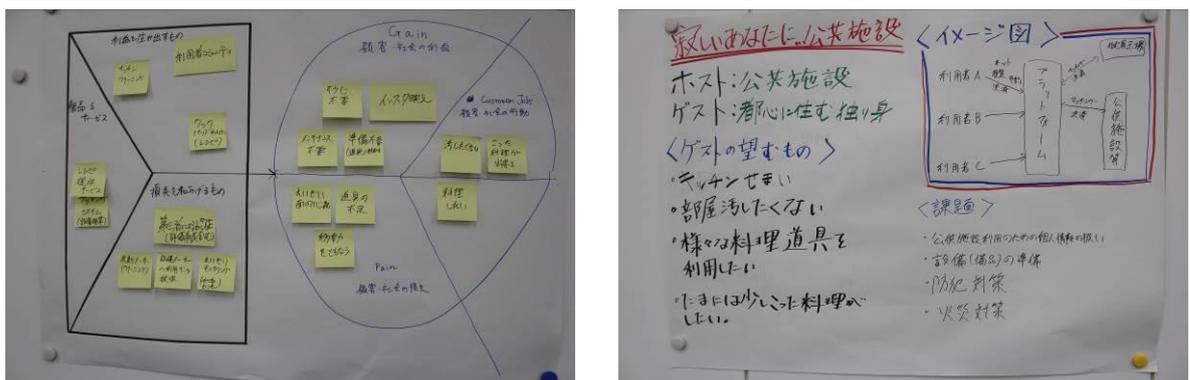


図 3-2 グループBの発表内容

(3) グループC (モノのシェア)

サービス名 : e-suit

- 不要になったスーツや、スーツメーカーが下取りしたスーツ等を共有するサービスを提案した。スーツの受取と返却はクリーニング店、コンビニ、駅、ホテル等、利用者が頻繁に利用する場所から行うことができる。クリーニング店とコンビニでは既存の配送網が利用できるため、サービスが導入しやすいという利点がある。
- 利用者として、普段はスーツを着用しない人を想定し、冠婚葬祭、就職活動、出張、プレゼンテーション等の重要なイベントの際に利用してもらう。また、スーツメーカーが新作スーツのトライアルの場として利用することも想定する。
- 利用者が自分の体型、好みの色、スーツ着用日時等を入力することで、利用可能なスーツとマッチングされる。マッチングの際には、プロのコーディネーターにより、色柄等を相談しながらスーツ選びを行うことができる。これにより、自身の体型と流行を捉えたスーツを利用することができる。



図 3-3 グループCによる発表の様子

(4) グループD (スキルのシェア)

サービス名：おもいやりシェア

- 地方で家族と離れて居住する高齢者を対象とし、高齢者と地域の繋がりを強化することを目的としたサービスを提案した。地域のコミュニティに参加せず、家に引きこもりがちになっている高齢者と、地域の子どもたちやその両親とをマッチングし、コミュニケーションの機会を創出するものである。
- 日常的なコミュニケーションを通して、コミュニティの参加者が、高齢者が体調を崩した際の医学的な支援と、心理的に不安定になった場合の簡易なメンタルケアを実施する。これにより、高齢者に心身の不調があった場合、早期に発見することができ、重篤化を防ぐことができる。このため、自治体には医療費の削減や介護費用の削減等のメリットがあると想定される。このため、サービスの運営費は自治体から拠出してもらうことを想定する。
- 地域の子どもたちにとっては、高齢者から幅広い業種で蓄積した知見やノウハウ（例えば伝統技術等）を教わる良い機会となると考えられる。
- サービスの提供にあたり、地域の高齢者の情報や子どもたちの情報等を取得する。この際、属性情報だけでなく、高齢者の会話や表情の変化からメンタル面の情報も取得する。
- サービスの拡張方法として、高齢者が心身の状態を崩したときの専門医への相談サービスや、終活支援サービスの提供等も想定する。

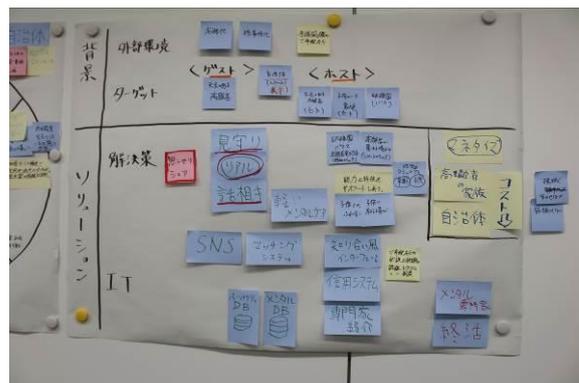
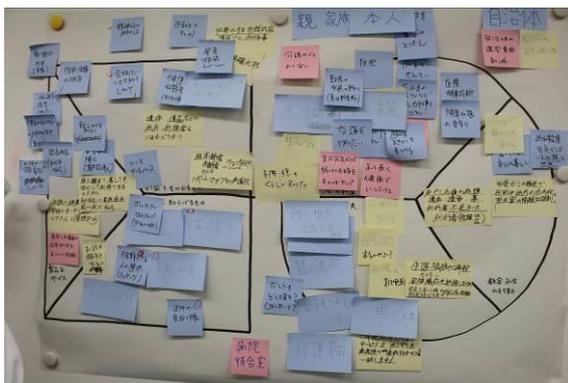


図 3-4 グループDの発表内容

3.2 講評及び審査結果

参加者等による投票の結果、グループ A が優勝、グループ B が特別賞に選出された。

以下では、各グループの発表内容に対する JEITA ソフトウェア事業戦略専門委員会委員からの講評について記載した。

(1) グループ A (優勝)

様々な移動手段を対象としている点が面白い。多様な主体を巻き込んだ総合的なサービスになるので、実現した際の影響も大きいのではないかと感じた。

(2) グループ B (特別賞)

キッチンに着目した点は新規性があると感じた。利用者は独身に限らず、家族のイベントや仲間内でのパーティーの際にも活用できるサービスであると感じた。利用者の楽しみ方として SNS への投稿を念頭においている点は、最近の若者のニーズを押さえていると感じた。

(3) グループ C

モノのシェアはシェアの対象物として様々な選択肢があるが、その中でスーツに絞って検討したため、具体的なサービスの提案になっていると感じた。体型の変動に応じてスーツを買い換えざるを得ない人も多いため、ニーズは高いと思われる。

(4) グループ D

国家的な課題となっている高齢者問題について真剣に検討している点が良かった。中間発表の際にはベテランのスキルを活用するサービスを考えているように感じたため、スキル活用の視点をもっと押し出しても良いかもしれない。

4. 総括

シェアリングエコノミーは、まだ定義が明確ではなく、市場創生の途上にある。一方、定義が決まっていないからこそ、発想をさらに飛躍させることで破壊的なイノベーションを起こせる可能性もある。本年度のアイデアソンでも、各グループから独創的で具体的なビジネスアイデアを提案していただいた。多様性のあるメンバが集まることで、よい議論ができたと考える。

今後、人口減少と高齢化が進展する中で、従来のように国・自治体や企業による手厚いサポートに頼るだけではなく、個人の力を活用した持続可能な社会を創ることが求められている。本アイデアソンを通じた議論を基に、新しいビジネスの萌芽につながれば幸いである。JEITA 企業としても、シェアリングエコノミーという新しい社会潮流を機会と捉え、安全・安心、快適・便利な社会の実現に向けて、引き続き社会課題の解決に貢献していきたい。

(ソフトウェア事業戦略専門委員会 委員長 白井克昌)